

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	クルーズ受入事業		
所管課	港湾空港局港湾振興部クルーズ支援課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成27年度		海外船社によるアジアクルーズ市場開拓が進むにつれて、中国・韓国と近接する博多港のクルーズ寄港地としての需要が増大。寄港数増加とともに大型化が進んでおり、クルーズ客の満足度向上のため、受入体制の充実を図る必要がある。
根拠法令	無し		
行政計画			

基 本 計 画					
施策コード	主	5-6-2			施策成果指標 外航クルーズ客船寄港回数(暦年) (H30年 264回)
	再				
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進				
事業群	クルーズ客拡大への取組み				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	クルーズ船によって来福する乗客及び乗員
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	博多港におけるクルーズ船の寄港増加に対応しながら、クルーズ船で来福する乗客及び乗員の満足度を向上させる。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	●利便性の向上 ・中央ふ頭の西側岸壁延伸部分において、クルーズ客を風雨や日差しから守るための屋根付通路を整備 ・箱崎ふ頭において、税関検査施設を整備 ・中央ふ頭と箱崎ふ頭を結ぶ連絡バスの運行 ●円滑な施設運営 ・中央ふ頭・箱崎ふ頭における観光バス等の交通整理員の配置 ・バス駐車場の料金徴収及び管理業務

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
歳出合計			130,713
歳入	特定財源		36,124
	一般財源		94,589
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
歳出合計		158,718	186,837
歳入	特定財源	40,563	45,805
	一般財源	118,155	141,032

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー（ロジックモデル）

①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) クルーズ船受入体制の充実		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) クルーズ船によって来福する乗客及び乗員の博多港寄港時の満足度が向上		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・博多港がクルーズ寄港地に選定される ・博多港のクルーズ港としてのイメージが向上		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) クルーズ船寄港数増につながる							
活動の指標	指標の内容	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	成果の指標（KPI）	指標の内容	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標				H 年度			目標	320	330		H 年度
		実績							実績	310	264	280	－
		達成率							達成率	96.9%	80.0%		
		目標				H 年度		目標				H 年度	
		実績						実績					
		達成率						達成率					

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	アイランドシティ環境共生型まちづくりの推進		
所管課	港湾空港局アイランドシティ事業部まちづくり推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成15年度		アイランドシティ事業計画において、先進的な環境共生都市づくりを推進することとしているため
根拠法令	なし		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	8-2-1		
	再			
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり			
事業群	先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり			
施策成果指標	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP地区)の従業者数 (H34年度目標値:30,000人)			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	アイランドシティまちづくりエリア
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	和白海域に面する絶好のロケーションを活かした魅力ある住空間を形成する

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・「第3期住宅公募地」事業の進捗管理 ・次期公募の実施に向けた調査・検討

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		0
歳入	特定財源	0
	一般財源	0
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H29	H31
歳出合計	4,914	0
歳入	特定財源	0
	一般財源	4,914

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー（ロジックモデル）

①活動アウトプット
（どんな活動を行うのか）

○開発事業者等へのヒアリング及び誘致活動の実施
○アイランドシティのPR活動の推進
○分譲完了地における事業の進捗管理

②結果アウトプット
（活動の結果、どうなるのか）

○事業者による自由で先進的な事業提案を誘導する公募を実施し、土地分譲が進む
○ZEH住宅など環境性能の高い住宅の開発が進む

③中間アウトカム
（その結果、対象はどうなるのか）

○和白海域に面する絶好のロケーションを活かした魅力ある住空間が形成される

④最終アウトカム
（その結果、市としてどうなるのか）

○福岡市を牽引する「先進的なまちづくり」が実現する

活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	企業との協議件数(累計)	目標	50	100	150	H32年度
		実績	52	78		200
		達成率	104.0%	78.0%		
	目標				H 年度	
	実績					
	達成率					

成果の指標（KPI）	指標の内容	実績		目標		
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	まちづくりエリアの土地処分面積累計	目標	112.4	118.4	123.9	H32年度
		実績	120.9	122.4		153.7
		達成率	107.6%	103.4%		
	目標				H 年度	
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	空港推進事業、福岡空港整備事業費負担金		
所管課	港湾空港局空港対策部 空港整備推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成15年度		福岡空港については、将来的に需給が逼迫する等の事態が予想されるとして平成14年国の交通政策審議会航空分科会の答申において、抜本的な空港能力向上方策等についての総合的な調査の必要性が明記された。
根拠法令	空港法		
行政計画			

基 本 計 画						
施策コード	主	8-4-1			施策成果指標 福岡空港乗降客数 (H34年度目標値:1,800万人 うち国際線350万人)	
	再					
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている					
施策	成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり					
事業群	空港機能の強化、利便性向上					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡空港(空港利用者)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 滑走路増設と平行誘導路二重化により、抜本的な空港能力向上を図る(空港利便性向上を図る)。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 滑走路増設事業及び平行誘導路二重化(国内線ターミナルビル工事等)において、市として関係機関と協議、調整を行った。
----------	--

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
	歳出合計	2,560,245	
歳入	特定財源	2,304,000	
	一般財源	256,245	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
	歳出合計	1,369,445	2,585,400
歳入	特定財源	1,232,000	2,326,000
	一般財源	137,445	259,400

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー（ロジックモデル）

①活動アウトプット
(どんな活動を行うのか)

・国による平行誘導路二重化が早期完成するよう市関連事業の調整を行う。
・国による滑走路増設の早期完成に向けた協力、市関連事業の調整等を行う。

②結果アウトプット
(活動の結果、どうなるのか)

・平行誘導路二重化事業が円滑に進む。
・滑走路増設事業が円滑に進む。

③中間アウトカム
(その結果、対象はどうなるのか)

・平行誘導路二重化の実現による空港能力の向上
・滑走路増設の実現による空港能力の向上

④最終アウトカム
(その結果、市としてどうなるのか)

・国内外との交流基盤である福岡空港の機能が強化され、福岡市の国際競争力の向上が実現する。

活動の指標	指標の内容	年度	実績		目標	
			H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標				H 年度
		実績				
		達成率				

成果の指標（KPI）	指標の内容	年度	実績		目標	
			H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	滑走路増設と平行誘導路二重化の実現	目標				H 年度
		実績				
		達成率				
	目標				H 年度	
	実績					
	達成率					